

# 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	01 学校教育を充実する
<b>施策</b>	01 特色ある就学前教育を推進する		

<b>基本方針</b>	人格形成の基盤、学校教育の基礎となる力を培うため、保育園や幼稚園の連携を図るなど、幼児の日々の生活、心身の発達および学びの連続性を踏まえた就学前教育を推進します。また、地域や家庭における教育力の向上を支援します。
-------------	--

## 教育総務部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
<p>子ども・子育て支援新制度の開始にあわせ、量の確保対策として、公立幼稚園20園中2園について4才児クラスを増設を行うとともに、質の確保対策として、加古川市就学前教育カリキュラムの見直しを進めるなど、なお一層の就学前教育の充実を図ることができた。</p> <p>公立幼稚園の運営に関しては、電気料金の値上げ、施設設置備品等の老朽化など厳しい状況の中ではあるが、節電や節水等により費用を抑え、幼稚園の運営に支障をきたすことなく適正な運営管理を行うことができた。</p> <p>また、市内の私立幼稚園3園に対して、幼児教育振興のため、4・5歳児の園児数に基づいて助成を実施した。平成27年度は引き続き実施するが、平成28年度以降は、市内私立幼稚園の「子ども子育て支援新制度」への移行の動向を見守る必要がある。</p>	

## 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
<p>ふれあい保育や子育て相談等の実施により、子育て中の保護者が交流する機会が増えた。討論の場では積極的に質問したり意見を述べたりする参加者の姿も見られ、子育てに関する情報や知識を得ることができた。また、地域ボランティアや高齢者との交流から、地域についても目を向け、つながりをもととする気持ちが芽生えてきた。今後は、保護者自身の教育力向上につながるよう更なる支援に努めていきたい。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
各幼稚園で掲げる実践目標を達成している園の割合	%	65.0 (平成21年度)	85 (平成26年度)	85
就学前教育や義務教育の内容に関して満足している市民の割合	%	43.7 (平成20年度)	47.4 (平成26年度)	51

## 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	01 学校教育を充実する
<b>施策</b>	02 義務教育を充実する		

<b>基本方針</b>	変化の激しい時代をいきいきと主体的に生きていく基盤を培うため、一人一人の学ぶ意欲や学力を向上させ、豊かな心と健やかな体を育成する義務教育の充実を図ります。
-------------	---

### 教育総務部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
<p>小・中学校運営については、施設設置備品等の老朽化など厳しい財政状況の中であり、例年光熱水費が運営経費の多くを占めていたが、電気の調達先を変更することにより、光熱水費を抑えることができた。特に小学校では節電節水等の意識が高く使用量が抑えられているため、運営全体に支障をきたすことなく適正な運営管理ができた。中学校においては、設備の故障等により水道及び下水道の使用量が増えたため、使用料及び賃借料(下水道使用料)の増額補正を行った。また、小学校の教科書改訂に伴い教師用の教科書・指導書・準拠教材の購入を行い、義務教育の充実を図った。</p> <p>本市に居住する外国人学校に通う児童生徒等の教育環境の充実のため、適正な助成に努めた。なお、兵庫県では外国人学校に対する補助金の支給基準に「使用する教科書などの教育内容」を加え、現行で要件を満たさない朝鮮学校については、平成26年度以降、補助金が減額されており、今後、他市の状況もみながら、適正な助成に努めたい。</p>	

### 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
<p>ことばの力総合推進事業では、各中・養護学校に「ことばの力」配達人を派遣し、子どもの思考力・判断力・表現力等の向上のきっかけづくりを推進するとともに、「伝えあうこと」を中心に研究開発を進めた加古川中学校の取組成果の全市的な周知に努めることができた。また、これまでの取組の成果を踏まえ、「ことばの力」育成プログラムの改訂版を作成した。</p> <p>英語活動支援事業では、ALTを増員し、これまでの小学5・6年生と中学校への配置に加え、こども園・保育園や幼稚園、小学校1年生～4年生にもALTを派遣することで、就学前から中学校卒業までを通した各発達段階に応じた英語によるコミュニケーション能力育成の更なる向上を図ることができた。</p> <p>学校ウエルネス促進事業では、小学校5年生に「かこがわウエルネス手帳」を配布し、効果的に活用する中で、児童生徒の健康や体力に関する意識の向上につながっている。今後、継続して手帳を活用することにより、更なる成果が期待される。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
学習指導の充実を達成している小中学校の割合	%	60.0 (平成21年度)	80.4 (平成25年度)	80
就学前教育や義務教育の内容に関して満足している市民の割合	%	43.7 (平成20年度)	53.3 (平成26年度)	51

# 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	01 学校教育を充実する
<b>施策</b>	03 特別支援教育を充実する		

<b>基本方針</b>	障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に必要な力を培うため、自らの能力や可能性を最大限に伸ばすことをめざした特別支援教育の充実を図ります。
-------------	--

## 教育総務部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
<p>特別支援学校の運営については、光熱水費の支払い、教材備品等の整備、施設設備の修繕やスクールバスの運行管理、警備業務等、適正な運営管理を行うことができた。なお、電力の調達先を変更し、節電と併せて光熱水費の削減を図ることができた。また、小学校の教科書改訂に伴い、教師用の教科書・指導書の購入を行い、義務教育の充実を図った。</p>	

## 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
<p>特別な支援や配慮を必要とする幼児・児童・生徒が、増えてきている現状の中、学校園で特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的かつ継続的な支援体制、および加古川養護学校での幼小中高の一貫教育をさらに推進することができた。</p> <p>また、教職員の資質向上をめざして、専門性を高めるための研修の機会を積極的に設けた。平成28年4月に施行される「障害者差別解消法」で、学校が「合理的配慮」の提供が義務となることを受けての学校園管理職や特別支援教育コーディネーターへの研修、スクールアシスタントや補助指導員へのスキルアップをねらいとした悉皆研修など、多くの機会を持つことができた。インクルーシブ教育システムの構築のため、さらに教職員の意識を高め、すべての子どもたちの相互理解の促進や豊かな人間性の育成をめざして、交流学习や共同学習を推進していく必要がある。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
加古川養護学校における支援環境の充実の達成度	%	52.6 (平成21年度)	66.5 (平成27年度)	80
特別支援教育の内容に関して満足している市民の割合	%	36.7 (平成20年度)	49.2 (平成26年度)	40

# 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	01 学校教育を充実する
<b>施策</b>	04 教育を支える環境を整備する		

<b>基本方針</b>	学校園においては、開かれた学校園づくりを推進するとともに、家庭、地域、学校園が連携・協力し、子どもたちの学びや育ちを支える環境の充実を図ります。また、社会環境の変化に対応し、高等学校、高等教育機関等との連携を促進します。
-------------	--

## こども部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
平成24年度以降、全園で実施している市立幼稚園の4歳児学級(各園1クラス 定員35人)について、市南東部の園では定員を超える申込みがあることから、利用希望に応えるため、平成26年度に2園で1クラスずつ増設し、2クラス 70人の定員増を図ったのに加え、平成27年度はさらに1園において1クラス増設、35人の定員増を行った。今後も、4歳児学級の利用希望の推移を見極めながら増設を検討していく。	

## 教育総務部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「A 期待どおり」
<p>学校園施設の耐震化については、子どもたちの生命・身体の安全を確保するため、早期に対処することが求められていたが、平成26年度末に躯体の耐震補強工事が完了。平成27年度には吊り天井等の落下防止対策を実施し、全ての耐震化工事が完了した。</p> <p>学校施設の老朽化対策については、優先的に改修を進めるべき棟を選定し、教育環境整備事業において中長期的に取り組む。平成27年度は必要な設計委託を予定通り実施することができた。平成28年度からは15年計画で内装改修、トイレ改修、機械や電気の設備老朽改修工事を実施する。</p> <p>維持補修事業については、既存施設の維持補修を行い、学校園の安定運営確保に努める。また、高木剪定については、近隣への落葉被害を防止するとともに、枯れ枝等の落下及び倒木からの児童・生徒の安全確保に努める。</p> <p>中学校給食の実施に向けて、専門業者による調査を実施し、調査結果を元に基本方針、基本計画を作成した。</p>	

## 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
<p>中学校区連携ユニット12推進事業については、校種間の連携においてもモデルユニットの指定などにより、効果をあげている。また、全ユニットに地域コーディネーターが配置されたことにより、充実した取組につながっている。今後は、各ユニットの特色に応じてモデルユニットを指定するなど、地域総がかりで課題解決を図る取組を、さらに推進する必要がある。</p> <p>いのちと心サポート事業では、いじめ問題や防災教育、心の健康教育等の喫緊の教育課題を、ユニット単位で研究を進め、その成果を加古川教育フォーラムで発表するなどし、各ユニットに広げている。心の絆プロジェクト事業では、各学校における生徒会・児童会の活動が充実してきており、その取組をまとめた実践事例集を作成し、各校に配布することで、さらに充実した活動につながることが考えられる。また、学校単位の取組だけでなく、小・中学校が連携した取組も増えつつあり、今後、つながりのある活動になることが期待される。</p> <p>いじめや不登校問題等の未然防止、早期発見・早期対応を目的とした「学校生活に関するアンケート」及び「いじめ相談シート調査」を実施し、児童生徒の学校生活への適応感を分析し、活用することで、学校経営あるいは学級経営に活かそうとする学校が増えた。また、ユニット12においても不登校対策を推進して、小・中連携を活かした取組が行われた。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
学校園施設の耐震化率	%	70.56 (平成22年度)	100 (平成27年度)	100
不登校児童・生徒の割合(小学校/中学校)	%	0.15/2.50 (平成21年度)	0.39/2.27 (平成27年度)	0.14/1.97
開かれた学校園づくりを達成している幼稚園および小中学校の割合	%	61.5 (平成21年度)	100 (平成25年度)	85

## 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本 目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	02 地域における教育・学習環境を整備する
<b>施策</b>	01 生涯学習を推進する		

<b>基本 方針</b>	市民の生涯にわたる学習活動を支援するとともに、市民が習得した知識や技能を社会や地域に生かせる環境を整えるなど、生涯学習を推進します。
------------------	--

### 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況： 「B 概ね期待どおり」</b>
<p>東加古川公民館の建替えについては、平成27年7月の「東市民病院跡地活用方針」において、加古川東市民病院跡地への移転の方針が示された。その後、パブリックコメントを経て平成28年3月には「加古川東市民病院跡地活用計画」を策定した。今後は、市民の利便性を考慮しつつ、利用ニーズの高度化・多機能化に伴う利用状況や圏域人口等を鑑み、整備計画の策定に向けて事業を進めていく。</p> <p>また、両荘公民館水洗化及び合併処理施設撤去工事については、平成28年度に実施設計を行う予定である。</p> <p>公共図書館の電子資料の利用については、平成28年7月からの「加古川市電子図書館」サービス開始に向け、平成27年11月に電子資料にも対応できるよう図書館システムの更新を行った。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
市民一人あたりの図書貸出冊数	冊	6.6 (平成21年度)	6.3 (平成27年度)	7.5
市民一人あたりの公民館利用回数	回	4.0 (平成21年度)	4.1 (平成27年度)	5.5
生涯学習機会や学習環境に関して満足している市民の割合	%	54.8 (平成20年度)	52.7 (平成26年度)	58

## 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本 目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	02 地域における教育・学習環境を整備する
<b>施策</b>	02 地域総がかりで青少年の健全な育成を図る		

<b>基本 方針</b>	家庭や地域における教育力の向上を支援するとともに、家庭、地域、学校園などが連携・協力し、青少年の学びや育ちを支え、心身の健全な成長を促します。
------------------	---

### 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> ： 「B 概ね期待どおり」
<p>・「児童クラブ教室整備事業」については、尾上及び川西小学校区において学校敷地内プレハブを整備し、加古川小学校区において学校外建物の改修を行ったほか、氷丘南小学校区では民間事業者が設置する児童クラブの整備により、平成28年4月からの高学年までを受け入れる整備を進めた。また、平岡、平岡北小学校においては、学校内教室を改修し、基準を満たす施設を拡充した。</p> <p>・「放課後子ども教室事業」については、平成26年度の3公民館から拡大し、9公民館で実施した。残る3地域については、平成28年度から事業を実施していけるよう、調整を行った。</p> <p>・「将棋まつり事業」については、平成27年度より、「将棋フェスタ」として（公財）ウェルネス協会で実施することに一本化した。</p> <p>・平成28年度において、宿泊棟の一室を車椅子のまま利用できるよう改造整備すること及び大型天体望遠鏡のレンズ・鏡の劣化に対する補修を行うことが決定した。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
地域(小学校区・町内会)での多世代交流イベントの実施割合	%	79.7(平成17～21年度の平均)	83.9(平成23～27年度の平均)	85(平成23～27年度の平均)
青少年の健全な育成に関して満足している市民の割合	%	17.0 (平成20年度)	42.8 (平成26年度)	24



# 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	03 スポーツや文化・芸術を振興する
<b>施策</b>	01 スポーツ・レクリエーション活動を推進する		

<b>基本方針</b>	市民のだれもが、生涯にわたり、年齢、体力、技術に応じて、スポーツ・レクリエーションを楽しめる環境の充実を図ります。
-------------	---

## 地域振興部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「A 期待どおり」
ウェルネス施設の管理運営を適切に行い、市民がスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができる環境づくりを行った。また、マラソン大会等を実施し、市民が参加できるスポーツ・レクリエーション活動を推進した。	

## 環境部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
<p>・いずみプラザの利用人数は、研修室:1,389人、キッズ・ルーム:2,950人、グラウンドゴルフ場:2,548人(利用回数では延べ4,357人)で合計6,887人(8,696人)であった。合計利用人数は2,069人の増で、前年比 約43%増であった。</p> <p>・実行プランの取組みについては、次のとおりであった。</p> <p>① グラウンド・ゴルフ場に私設メータを取付け散水量を把握することで、下水道使用料を年間で19,891円(税込み)減額した。</p> <p>② 隣接のクリーンセンターと連携し事務を進めることにより、職員の勤務シフトの調整や、窓口で受領した使用料の納入事務を円滑に行うことができた。また、PRの結果、利用者数が約43%増えた。</p> <p>③ グラウンド・ゴルフ場について、稲美町など他市町の施設と、適宜、情報交換を行い運営方法の確立に努めた。</p>	

## 建設部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
キャンプ場の利用状況は、近年のアウトドア人気の影響もあり、年々利用者は増加しており、使用料による収入も増加している。ゴールデンウィーク、シルバーウィークにおいてはフル稼働しているが、それ以外についても、利用率向上に向け、PR等を進める。	

## 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
<p>・加古川市民スポーツカーニバルは、体育協会の種目協会が実施するスポーツ体験や元オリンピック選手が主催するイベントなども実施し、今年度は6,000人の参加があり、スポーツに親しみをもち、スポーツを始めるきっかけづくりの提供に寄与している。</p> <p>・自動車専用道路の整備、岩肌路面の改修ともにプランが進行していない。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
週1回以上スポーツをしている20歳以上の市民の割合	%	38.1 (平成19年度)	42.1 (平成23年度)	50以上
スポーツ・レクリエーションの活動機会提供に関して満足している市民の割合	%	54.6 (平成20年度)	51.6 (平成26年度)	58

## 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	03 スポーツや文化・芸術を振興する
<b>施策</b>	02 豊かな文化・芸術をはぐくむ		

<b>基本方針</b>	歴史、風土に培われた地域の文化を守りながら、多様な文化・芸術に対する市民の理解や主体的な活動を促進するとともに、異文化への理解を深める国際交流を推進し、豊かな文化・芸術の創造に向けた環境を整えます。
-------------	---

### 秘書室

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
<p>・国際交流センターは竣工から25年が経過し、老朽化が進んでいるが、清掃等の日常業務に加えて、定期点検により修繕が必要な箇所を早期発見、改修することで、利用者の利便性の確保と中長期的な維持管理コストの低減を図った。</p> <p>・国際交流事業を国際交流協会に委託し、実施することで、多文化が共生する心豊かな社会の実現に資することができた。</p> <p>・国際交流センターの利用や国際交流事業の普及啓発を図るため、国際交流協会とホームページのあり方について協議し、リニューアルを実施した。</p>	

### 地域振興部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「A 期待どおり」
<p>文化施設の管理運営を適切に行うことにより、市民の文化・芸術活動の取組みを支援した。また、文化まつり、美術展、加古川清流戦等を実施し、市民が文化・芸術活動へ参加したり、身近に触れたりする機会を提供した。</p>	

### 教育指導部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「B 概ね期待どおり」
<p>埋蔵文化財の調査や考古資料の整理については、今年度は大幅に進捗するとともに文化財講座の開催、文化財ニュースの発行、小学生の古墳見学会などにより、情報発信の成果があったものと思われ、全体的には概ね期待通りの成果は達成できたものとする。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
指定文化財数	件	110 (平成21年度)	119 (平成27年度)	125
主な文化施設の利用者数(市民会館、総合文化センター)	人	319,965 (平成21年度)	347,437 (平成27年度)	340,000
文化・芸術に接する機会提供に関して満足している市民の割合	%	48.3 (平成20年度)	47.4 (平成26年度)	52



## 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	04 互いに尊重しあって暮らせる社会を実現する
<b>施策</b>	01 人権文化を確立する		

<b>基本方針</b>	市民一人一人が人権意識を高め、日常生活の中でお互いの人権を尊重し、ともに生きる社会の実現をめざします。
-------------	---

### 市民部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況： 「B 概ね期待どおり」</b>
<p>・新規事業として、新たな人権施策の拠点として設置した「加古川市人権文化センター」において、地域の人権リーダーの養成を目指す人権学習講座等を開設するとともに、人権アドバイザー制度を創設し、地域主体の研修会等への講師の派遣や公民館での人権相談を実施した。</p> <p>・また、人権教育講演会や人権啓発セミナー等の啓発事業も引き続き開催するなど、人権教育・啓発活動の充実に努めたところである。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
人権教育講演会および人権啓発セミナーの参加者数	人	3,749 (平成17～21年度の平均)	3,528 (平成23～26年度の平均)	3,800 (平成23～27年度の平均)
人権教育や人権啓発の推進に関して満足している市民の割合	%	57.3 (平成20年度)	54.2 (平成26年度)	61

## 加古川市施策評価シート＜平成27年度実施分＞

<b>基本目標</b>	02 心豊かに暮らせるまちをめざして	<b>政策</b>	04 互いに尊重しあって暮らせる社会を実現する
<b>施策</b>	02 男女共同参画社会の形成を推進する		

<b>基本方針</b>	男女共同参画の意識醸成と環境づくりを推進し、市民一人一人が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現をめざします。
-------------	--

### 企画部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「A 期待どおり」
<p>・「第4次男女共同参画行動」(計画期間:平成28年～32年度)計画を策定し、計画書のほかに概要版を作成し、周知啓発に努めている。</p> <p>・審議会等への女性の参画率は、関係課への働きかけや積極的な啓発の結果、最終的に33.3%となった。</p> <p>・地方創生事業の一環として、男性の家庭参画促進や女性の新たな就労機会の創出に向けたセミナーを開催するとともに、SNSの活用やターゲットを絞った効果的な広報に努め、休日開催のセミナーを増やした結果、セミナー・講座への参加者は増加した。</p> <p>・特に「まちづくり講座」においては、地域活動の契機として、より実践的な内容に絞りこんだ結果、女性人材バンクへの登録につながった。また、起業セミナーでは受講者による自主活動グループの結成にもつながるなど、事業効果を高めることができた。</p>	

### こども部

<b>【施策評価】</b>	<b>進捗状況</b> : 「A 期待どおり」
<p>加古川市配偶者暴力相談支援センターにおいて、離婚、夫婦関係、配偶者からの暴力等の相談に応じるとともに、女性の自立に向けた支援を行うことができている。また、平成28年3月に「加古川市配偶者等からの暴力対策基本計画」を改定し、配偶者暴力の防止に関する総合的な施策の方向性の見直しを行った。</p>	

まちづくりの指標				
指標名	単位	総合計画策定時	現状	目標値(H27)
審議会等への女性の参画率	%	29.4 (平成22年度)	33.3 (平成27年度)	50
男女共同参画の啓発に関して満足している市民の割合	%	45.3 (平成20年度)	48.8 (平成26年度)	49